

議 長 日程第1「議案第26号平成30年度松田町一般会計予算（予算審査特別委員会報告）」を議題といたします。

本案については、一般会計予算審査特別委員会の審査報告を求めます。委員長、田代実君。

予算審査特別委員長 ただいまより予算審査特別委員会の報告をさせていただきます。皆様に配付されている報告書を朗読させていただきます。

平成30年3月13日、松田町議会議長、中野博殿。予算審査特別委員会委員長、田代実。

予算審査特別委員会報告書。本委員会は、3月13日の午前9時より役場4階大会議室において、委員全員出席のもとに委員会を開催し、平成30年第1回議会定例会において付託された「議案第26号平成30年度松田町一般会計予算」について、慎重に審査いたしましたので、次のとおり報告します。

記、1、審査の結果。採決の結果、賛成全員で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

2、審査の内容。歳入については一括、歳出については各款ごとに審査をしました。予算規模は、49億9,000万円、前年度対比4億3,000万円の増額となり、過去最高の予算額となっています。歳入は、国庫補助金やふるさと納税等が増加していますが、依然として厳しい状況にあります。歳出は、町営住宅建設事業や各種の地方創生推進事業を取り入れた定住、人口増加策の積極的な予算編成となっています。

次の項目について強く申し入れて、賛成することとしました。1、旧松田土木事務所の改修に伴い、多額の予算が計上されています。その事業内容や運営方針が不明確であり、説明責任を果たすことが難しいと思われるため、執行に当たっては、慎重に対応されたい。

2、地方創生交付金等を多用した事業を導入したことから、町債が急激に増加しました。松田小学校建てかえ事業等での町債の発行は避けられませんので、将来に向けた返済計画をしっかりと作成されたい。

3、改修された町民文化センター大ホールを活用し、町民の文化行政向上、交流人口の増加に積極的に取り組まれたい。

以上が付帯項目なんですけれども、この中に、口頭でつけ加えるべきだということが委員会で示されました、その内容についてお伝えいたします。今回は、町税を増とする記載は控えております。自主財源の中核をなす町税の予算額は今年度、新年度ですね、15億4,000万円となっています。平成20年度の町税の決算額は17億4,000万円、10年間で2億減少していることとなります。この件に関しては、今までの特別委員会である程度記載してきたんですけれども、現在、人口増による活性化、町税の増を目指して各種政策を展開しているため、もう少し様子を見ようということで、今回は自主財源の町税に関する内容は控えております。その分、ふるさと納税あたりでカバーしていただいて、極力自主財源を設けてほしいという言葉が、ことを委員会で皆様に口頭で報告するよというふうなことを伺いました。そして、そのかわりに、町債の返済計画、これをしっかり行ってという表現で2番に記載させていただきました。

以上で私の報告を終わります。補足説明等がありましたら、委員の皆様のお話をお願いしたいと思います。以上です。

議 長 一般会計予算審査特別委員会委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。

1 番 平 野 ページで言うと169ページの未来トップランナー育成・応援助成金のことなんですけれども、きのう、委員会のほうを傍聴させていただいたので、齋藤委員でしたか、非常に細かく質問されていて、私もそこで聞いていてうなずきながら、本当にそのとおりだというふうに聞きながらしていたんですが、ちょっと聞き足りなかったとか、もう少し聞きたかったことがあったんですけれども。これ、未来のトップランナーを育てるというの、すごく前向きだし、それから何より、これまで余り高校生を対象にとはつきりうたったものが少なかった気がするので、非常にこれいいなというふうに思っているんですが、一方で、きのうのお答えの中に、まだ具体的なことは何も決まっていないというような答えが何回も出てきて、そこですごく心配をしまして、ちょっと難しい、方式としてきっと難しいものなんだろうなというのは想像がつくんです。ただ、説明書のほうにも、きのうの口頭の説明でも、5,000円×12カ月×15人を計上というふうにあるんですけれども、これが、どうやって選ぶのかな

とか、きのう総合教育会議で選ぶんだという話は、お答えはあったんですが、何を基準に選ぶのか。教育長のお答えにもちょっと、生活が苦しい御家庭のお子さんなどは特に、こういうことを続けるのは大変だからみたいな、お言葉もあったんで、そういうのを基準にするのか、何か本当に難しいだろうなと思いました。公平性の問題とかをね、考えると。このあたりのところは、どのように考えたらよろしいでしょうか。

2 番 田 代 冒頭、平野議員から御指摘のあった今回の予算、内容がちょっと煮詰まっていない中で計上されたものが多かったという中の、このトップランナー育成・応援助成金はその最たるものなのかなというふうに感じております。少なくとも、予算計上する以上は、ある程度固めた中で議論するという原則から言うと、この内容は熟してなかったというふうには感じております。ただ、私ども、広い意味での子育て支援というふうに捉えさせていただきます。障害者とか高齢者の方についての福祉は当然なんですけれども、やはり、若い方への福祉というのが、支援というものが、少し少ない中で、やはり特徴を持たず、松田町が人口減少をとめて、生産年齢人口を拡大するには、やはり、こういった高校生あたりに光を当てて政策を行うのは必要ではないかという中で、総論としては私は好ましいと思います。御指摘いただいた、平野議員も傍聴していただいて感じたと思うんですけれども、確かに内容は固まっていません。これについては、しかるべき早い時期に、ある程度固めていただいて、議会のほうにまた報告していただいて、議会ともキャッチボールをしながら進めていきたいというふうに私は感じて賛成いたしました。以上です。あとは、齋藤議員、補足がありましたら、よろしくをお願いします。

1 番 平 野 そのように、そうですね、大きな意味の子育て支援ということで考えればということ、私も、何ていうかその、名目というか、その大きな方向としては、すごく賛成できるなと思います。ぜひ、今、田代委員長がおっしゃったように、早いうちに、この具体的な内容を煮詰めていただければなど、ぜひ議会にも相談をしていただければなと思います。

ちょっと、私も気になって、やはりこれは、せっかく始めていくので、これ育てるということであると、例えばどのくらい続けるのかということか、やっぱ

り育てるとなると、3年や5年では無理だと思うんですよね。どういうふうに、どこから始めてどこまでとか、そしてそのなかなか成果が出なかったときに、まさか返せとは言わないでしょうと私は思っていますけれども、そういうところとか、いろいろ気になるところがございますので、ぜひぜひ。一つには、何ていうか、こういうふうな、継続も大事なんですけど、何だろうな、例えば私なんかも見えて、大きな大会に出たりするのに、結構、親御さんの経済的な負担というのが、ちょっと気になるようなところがあります。いろいろな種目ですね、部活動になっている種目じゃなくても、結構遠いところまで試合に行く人はいますので、そういった支援とか、何かもうちょっと具体的なほうがいいのかなんていうふうに思いました。以上です。これは要望で。

議 長 ほかに。ございませんか。

3 番 井 上 一般会計予算審査特別委員会、御苦労さまでした。その報告書をですね、今、報告いただいたところですけども、平成30年度の一般会計予算、全体についてですね、お聞きをしたいと思います。平成30年度一般会計予算はですね、総額で49億9,000万と、これまででですね、一番大きい予算額だということでございます。その中でですね、やはり前年度からですね、地方創生、あとはPFI住宅等の関係で、ますます町債の金額が増高しております。そういった中で、松田町の財政の健全性を担う根拠としてですね、一般会計予算審査特別委員会の中で、どのようなですね、質疑、議論が行われたのか、今後のまた松田町ですね、公債比率の見込み等ですね、調書のほうは参考資料ということで出させていただいております。今後ますます公債費も増大します、それ以外にもですね、扶助費とか義務的経費としての介護保険事業会計への繰出金、一般会計…国民健康保険への繰出金、高齢者医療への繰出金等々がですね、ますますふえていくということで、先ほどの委員会報告の中でも、口頭でですね、自主財源としてのウエートの一番大きい町税についてはですね、減少傾向にある。それらはしばらくの間ですね、注視をしていこうという報告がございましたけれども、それらの松田町の財源で今後、今回、平成29年度、30年度で地方創生の関係でですね、借り入れた起債と、それらの償還額、今後の大きな事業として想定される、町債の中にはですね、松田小学校の建設事業等々入っております

けれども、それらに未計上の松田中学校の校舎の整備事業、駅前周辺の再開発事業等々の大きい事業が控えております。それらを踏まえて、平成30年度松田町一般会計予算、まだまだ健全なのかどうか、それらについてですね、委員会のお考えをお聞きしたいと思います。

2 番 田 代 初めに町税なんですけれども、現在、狭隘道路、それを広げて、少しでも車が入るようにして、空き家になっているところに空いたんで戻って来ていただくという施策が走り始めて3年目ぐらいに入っていると思います。徐々にですけども、そういったことで帰ってくる人口、それとあとは、今回のPFI住宅の若者の住宅ですか、そういった形の政策、また水道料の若い世代の減免ですか、あとは新しく引っ越された方、また戻ってきた方への定住の交付金とか、各種政策をしている中で、その政策がすぐには実を結ばないと思うんですけども、あと少し我慢すると、その成果が出てくるのではないかと、減少傾向を、人口の減少傾向イコール町税の減少傾向を、ある程度、そこでストップできるのかなということで、私、口頭で様子見という表現をさせていただきました。一方で、では歳入の中で町債が占める割合が非常に多くなっているということは、(2)の付帯項目で記載させていただいております。

この件に関して、井上議員御指摘のとおり、予算特別委員会の中でも、財政当局から配付いただきました地方債現在高の推移と実質公債比率の今後の見込み、この資料をもとに、ある程度議論させていただきました。現在は、公債費比率6.1%です。極めて健全というとおかしいですけども、十分やっつけられる公債費比率ではないかというふうに感じております。しかし、平成35年、6年ですか、このころになると、6年、7年ぐらいになりますと、松田小学校の建てかえが終わった後の返済が入ってきます。それ以外にも、今度、町長の一つの目玉である松田町駅前整備事業、これがスタートして、当然、内容がまだよくわからないんですけども、それなりのやはり借金、町債は発行してやらなければいけない事業であろうというふうな中で、この1年間、2年間は、国の創生事業をうまく使いながら、町長のお言葉で言うエンジンを回していくんだと、松田を元気にしていくんだということで、よろしいかとは思いますが、やはり数年先からは厳しい状況にあると。そのようなことから、やは

り一番借金の返済というのは、20年、25年の町債ですから、その辺を念頭に置いた中でしっかり財政計画、またこの起債の返済計画を立てていただきたいということを2番に記載させていただいたと。そのようなことでこういう表現になったということで御理解いただければありがたいと思います。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。公債費についてはですね、平成35年あたりがですね、もう9.9%、もう10%を切るか切らないかというところに到達をすると思います。そこらあたりがですね、29、30、31のさまざまな起債がですね、据置き期間が終わって実質の償還が始まってくる。ボディーブローのようにですね、きいてくる年次ではないかなというふうに考えています。また、その35年度以降からですね、やはり駅周辺の整備事業も、先日の町長のほうのお答えであれば、始まって行って、またさらに起債償還がふえていく年度かなというふうに思います。さまざまな町の定住促進、子育て促進の策により、町税をふやしていこうということについてはですね、今の説明で理解ができました。

もう1点ですね、この30年度一般会計予算の中で、子育て支援という、定住促進のほうはですね、PFI住宅の建設等で進められていて、今の狹隘道路の拡幅による定住の方向性というのを説明がありました。それ以外にですね、新たな新規としての子育て育成に対する部分としては、トップランナーとかですね、あとは英検へのですね、支援というものはあったというふうには理解していますけども、それ以外にですね、新規事業で子育てに資する事業としては、どういったものがあったのか、わかればお答えを願いたいと思います。

2 番 田 代 先ほどの報告の1番です。松田土木事務所の改修あります。女性が輝くというタイトルの中の事業なんですけれども、文章の中では、女性の起業家、これを支援するとあったんですけれども、一方で、全員協議会でいろいろお話を伺ったり、総務文教常任委員会で、この松田土木の改修伺ったときに、子育て支援を併用しているんですよね。輝く女性の企業支援とあわせて子育て支援と。特別委員会でも、女性の起業支援はちょっとうまく理解できないけれども、子育て支援はやっていくべきだと、隣にできるPFIの若い方向けの住宅に転入してくる若い人が住む、それに合わせて近くに松田土木事務所をリニューアルした中で子育て支援、そういったものもやっていくべきだということで、理事

者から提案されたものに対して、委員からはそのような発言も出されたということがありました。以上です。

3 番 井 上 ありがとうございます。子育て支援はですね、松田土木事務所跡地ですね、リノベーションによる部分ですね、今は女性が輝く起業家への支援というところがですね、スポットライトが当たっているというふうに思いますけれども、今、委員長が説明されたようにですね、町側のほうもですね、やはり、その中にも子育て支援住宅が隣接をしているところもございます。そういった中に含めてですね、子育て育成も、子育てに対するですね、支援、助成もですね、含めた事業で展開されるというふうに理解しましたので、よろしくお願いをしたいと思います。ありがとうございました。

議 長 ほかに。

2 番 田 代 1点だけ、ちょっといいですか。子育て支援で大事なことを忘れていました。町の施策の中で、さくら保育園の中に子育て支援センターをつくろうということで1つ新しく加わっています。その中では、やはり幼稚園の中ですから、運用に当たっては、ある程度注意して、門戸を広げて、幼稚園の利用者以外、保育園の利用者以外の方にもというふうなことも議論されております。以上です。

議 長 ほかにございせんか。

4 番 南 雲 今、学校のICTのこれからプログラミング教育が始まるということで、我が町はいち早く取り入れてられて、本当に力を入れられていると思うんですけども、英語検定の、小・中学生の児童に受検料の補助を進められる事業が始まりますけれども、1級から5級というね、すごいハードルも、1級、2級になるとかなり高くなると思うんですけども、この教育に対して、ちょっときのうの質問では出なかったんですけども、例えば、細かくは係に聞けばわかるんですけども、例えば、この事業を始めることによって、生徒が何か、なかなか受からなくて萎縮しちゃうとか、そういったことがないようにするべきだと思うんですけども、その辺のお考えをお伺いしたいと思います。

2 番 田 代 申しわけございせん。私の委員長の立場では、この件に関しては議論をしておりませんので、お答えできません。この内容については、また理事者側と南雲議員の間でやりとりをしていただければありがたいと思います。よろしく

お願いします。

議 長 ということでございます。

4 番 南 雲 すいません、わかりました。とてもね、いい、すごい、これから少子化対策に向けて、若い方たちがね、移り住むに、題材としてはとてもいい事業でありますので、やはりこれはすごいね、慎重にね、進めていただきたいなと思います。以上です。

8 番 小 澤 私も、今回の予算審査特別委員会では、副委員長という立場で審議に当たらせていただきました。今回の予算審議を通じてですね、一番やはり感じましたことが、従来予算編成とは大分趣が異なっていました。町長初め担当課長のほうからですね、やはり地方創生関連の交付金を一生懸命頑張って獲得をされたということに対しては、大変敬意を払っています。その獲得した交付金をですね、予算編成の中で生かしていく作業ですけれども、この辺がどうも、担当課の中において未消化の部分が非常にあるように感じました。予算事業につきまして、1点1点確認していくんですけども、内容が非常に漠然としていて、ちょっとつかみどころがない。本来、予算に盛り込まれるものについては、こういう事業、あるいは町民の要望があつて、要請があつて、あるいは町長が施策として、こういうことをやっていきたいんだと。そのためには、どうしてもこれだけのお金が必要だ、だから認めてください。そういうのは今までの予算編成であったのかなと思いますけれども、今回は、そういった交付金ありきの中で、じゃあこの部門に、言葉は悪いですけども、つかみ金で置いていった。あとは内容を煮詰めなさいよというように取れたんですね。ところが、これが、各担当課でどうも未消化の部分がある。これは国際交流についても…（私語あり）違う、そこを感じたから言ってるんだから。そういうようなことを強く感じました。やはりですね、交付金ありきではなくて、そのもらったものを全部使おうというんじゃなくて、やっぱり交付金があつて、実際にやっていったときに、ここまでで十分済みますよ、そういう…。

議 長 小澤議員、ただいまの小澤議員の発言は、当然委員会の席上で言うべきことでありまして、今ここで申すことではないと思いますので、後日、また担当課なり。

8 番 小 澤 そうですか。

議 長 はい。きょう、違いますね。

8 番 小 澤 委員会を通じて感じたことを。（「そういう発表の場じゃない」の声あり）
いや、委員長に言う言葉です、委員の方に言う言葉ですよ。私はこういうように感じて、今回の委員会を通じて、こういうように感じましたということを議員の皆さんにも…（「委員長が報告した後すぐ言うべき話であって、だめだめそれは。今、あなたがそこで発言することじゃない。だめです」の声あり）

議 長 質疑になっちゃっている。

8 番 小 澤 そうですか。（「そういうことで感じて、もしあれだったら、反対討論で私はこれで」の声あり）委員長報告がされた中で、ただそこには書き切れない部分があった。（「それはだから委員長報告終わって、補足説明のときに言うべき話で、あなたがここで言ったら、こんなルールがむちゃくちゃになっちゃう。だめです」の声あり）だって、委員長報告が終わったじゃないですか。

議 長 今、質疑の時間ではない。

8 番 小 澤 それに対して、あと委員以外の方が質問をされて、最後に私は…。

議 長 小澤議員がお答えになれば、いいんじゃないんですかね。どなたかの質疑をしてもらって、小澤議員が補足説明という形で、やっていただければ。（「答えるほうだよ。質問するほうじゃないじゃない」の声あり）（「私の質問に対する答えのときに、それを補足してくれれば」の声あり）（「そういうことでしょう。委員長が報告したら、すぐあなたがそれを言うべき話なんです」の声あり）

8 番 小 澤 私はね…ちょっとまってよ、私は質問しているわけじゃないですよ。（「意見言っちゃいけないの」の声あり）皆さんからの質疑が出た中で、それで、委員長が報告されたことに対して、補足で今、こういうお話をしているんです。それだめなんですか。

議 長 ちょっと違うんではかろうかなと思いますけどね。

2 番 田 代 筋論から言うと、今お話のあったように、私の報告の後、私も皆さんにお話ししたように、委員の皆様、私の発言以外に補足があればお願いしますと、そこでお話しするのが筋だったと思います。ただ、若干、質疑で始まってしま

ったんですけども、副委員長として、やはり思い入れがあると思いますので、短時間にまとめていただいて補足をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 わかりました。委員長からのそういった要望でございますので、8番 小澤君の補足説明として認めます。どうぞ。

8 番 小 澤 どこまで話したのかわからなくなっちゃった。あのね、要するに、今回の予算審査の中では、交付金ありき、それを各担当課がうまく消化をされていない部分がある。これはだから、その審査特別委員会の中で委員のほうからいろいろ質問が出たけれども、明確な答えが返ってこない部分があったということを感じています。これは、交付金を何でも使っちゃえばいいということになりますとね、やはり100%保持じゃありませんから、当然、自主財源というものがついてくる。つまりそれは、町債の発行という形になってくるわけですよ。そういう中で、将来的に財政の硬直化を招いていくおそれがある。これは、3番議員、1番議員のほうからも、その辺の心配される声も上がっていましたけれども、やはりその辺についてはですね、財政当局として慎重に返済計画を立てた中で、あるいは新しい投資的事業が出てきたときに、それに対する町債も含めた、そういった返済計画をしっかりとやっていかないと、ちょっと怖いな、そういうような感じを受けました。これは、やはり今回の予算審査の中で特異な現象であろうかと思えますけれども、これからまだまだ先、投資的事業を行っていくについて、その辺の真剣な検討をされることを危惧しています。以上でございます。

3 番 井 上 今回の8番 小澤議員の報告についてですね、質問がありますので、お答えできればですね、お願いをしたいと思います。私もですね、昨日の特別委員会のほうですね、傍聴させていただいておりました。その中で、今、小澤議員が報告されたようなことについてですね、思い当たるところもあります。前町長の島村町長のときからの慣例でですね、予算特別委員会は、町長はですね、欠席を、最初の挨拶からですね、中座されて、自席で待機というふうなことでやっていると思います。この30年度予算、今までもそうなんですけれども、やはり町長の思い入れのですね、部分があると思います。なかなか担当としてですね、

そういった部分が伝わっていないとか、なかなか、予算編成までの、また予算編成後もですね、大変忙しい中でのことであろうかなというふうに思っています。ですので、私としてはですね、町長は予算特別委員会にはですね、やはり終日出席をしていただきたいと思いますと思いますが、そういった中であればですね、今の小澤議員のような報告の内容について、町長の思い、考え方というのが説明できるのではないのかなというふうに思いますけれども、それに対して小澤副委員長はどういうふうにお考えなのかをお伺いいたします。

8 番 小 澤 今、井上議員が言われたことも、もっともな部分もあろうかと思えます。ただ、特別委員会では各項目について細かい点まで精査をしておりますのでね、最後の総括質疑の段階でやはり町長の出席が欲しかったのかな。これは今、反省しておりますので、これから先の予算審査あるいは決算審査の特別委員会の中でね、やはり最後の総括部分については、やはり町長の出席をお願いしたのがいいのかなというように感じています。

3 番 井 上 私もですね、そういうふうに感じております。終日というのもですね、あれですので、またその辺はですね、また皆さんで議論をしていけたらいいかなと思えます。回答ありがとうございました。

議 長 ほかに。

(「なし」の声あり)

ありませんか。この辺で質疑を打ち切りたいと思います。御異議ございませんか。

(「異議なし」の声多数)

異議なしと認めます。討論に入ります。

(「省略」の声あり)

討論省略という声ですが、討論を省略して採決を行って御異議ございませんか。

(「異議なし」の声多数)

御異議なしと認めます。討論を省略し採決を行います。議案第26号平成30年度松田町一般会計予算について、予算審査特別委員会報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

起立全員であります。よって、本案は委員会報告のとおり可決されました。